

採集。

筆者の一人小島は、以前、台湾・阿里山において植栽されたモクレン科の植物から採集したという本種の標本を検したことがある。本種は、モクレン科のホオノキ *Magnolia obovata* を寄主とするフトアナアキゾウムシ *P. gigas* (Kôno, 1934) と形態比較したところ、以下のような特徴を共有していることが明らかとなった：1) 上翅傾斜部に密に鱗片を装う；2) 前胸が基部で最大幅となる；3) 上翅先端に棘上突起を有する。また、Morimoto (1982) の日本産種の検索表でも、上記特徴から本種は、フトアナアキゾウムシに行き着く。これらのことから、両種が系統的にも類縁性のある種同士であると考えられ、本種が南西諸島や台湾に分布するオガタマノキ *Michelia compressa* などのモクレン科植物を寄主としている可能性があり、今後、調査により確認したい。

なお、本調査研究は東京農業大学戦略研究プロジェクト（代表：小島弘昭）の助成を受けて行われた。

#### 引用文献

の場 績, 1983. 日本初記録のゾウムシ. 月刊むし, (154): 25.  
Morimoto, K., 1982. The family Curculionidae of Japan. I. Subfamily Hylobiinae. Esakia, (19): 51-121.

(加藤大樹 243-0034 厚木市船子 1737  
東京農業大学農学部昆虫学研究室)  
(小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737  
東京農業大学農学部昆虫学研究室)

#### 【短報】ムモンシリグロオオキノコを滋賀県で採集

ムモンシリグロオオキノコ *Pselaphandra inornata* (Chûjô, 1941) (図1) を滋賀県東近江市で採集したので報告する。赤色を呈するオオキノコムシ亜科の他種に比べ、本種は小鰓肢 maxillary palp の末端節



図1. ムモンシリグロオオキノコ (滋賀県産)。

が黄色を呈し、細長く発達しており、他種との見分けは容易である (Chûjô, 1941; 中條, 1969; Chûjô et al., 1993)。

6 exs., 滋賀県東近江市永源寺町高野, 23. XI. 2019, 筆者採集・保管。

6 個体の体長と体幅 (肩部間)；体長  $5.9 \pm 0.87$  mm ( $4.6$  mm ~  $6.7$  mm), 体幅 (肩部間)  $2.8 \pm 0.45$  mm ( $2.0$  mm ~  $3.2$  mm)。

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 (2018) に本種の記録が見当たらないことから、本報告が滋賀県からの初記録と考えられる。

得られた 6 個体の上記の計測データから、体長と体幅に大小が認められた。採集個体は、薪加工用に切り出され、アスファルト路面上に置かれた樹種不明の木材 (直径約 0.4 m) の切断面に生えたキノコから得られた。キノコは、スギタケ *Pholiota squarrosa* と考えられるスギタケ属のキノコと、アラゲキクラゲ *Auricularia polytricha* の 2 種 (横山, 私信; 本郷ら, 1985; 松田・成田, 1986) を確認したが、このうちスギタケ類の傘の裏側にいる個体を採集した (図2)。この周辺は、背後の急斜面に常緑のアラカシの大木が点在しており、これらの幹や枝にはマメヅタがびっしりと着生していることから、比較的湿度が高い環境と考えられる。

本種は 1936 年に英彦山で採集された 1 頭の標本を基に新種として記載され (Chûjô, 1941), 対馬 (別亜種) を除き、全国各地で得難い種のように、都道府県のレッドデータブックでは神奈川県で絶滅危惧 I 類、福岡県で情報不足とされている。採集時期は、6 月 (鹿児島県), 7 月 (福岡県), 10 月 (茨城県, 山梨県) と 11 月以降 (奈良県, 徳島県, 静岡県) に得られている (Chûjô, 1941; 木元, 1969; 水野・細田, 2010; 中峯, 2009 など)。得られたキノコはモエギタケに似たキノコ (茨城県), ヌメリスギタケやその近似の菌類 (福岡県), 子実体の食害種として食用キノコではエノキダケ (清山, 1999), クリタケ, ナメコおよびヒラタケ (森林総合研究所, 2008) が報告されており、本報告のスギタケからの採集はこれまでの記録と合致する。なお、上記採集日の 1 週



図2. ムモンシリグロオオキノコを採集したスギタケ類。